

職員による自己評価

A環境面

- 利用定員とスペースの関係は適切
- 職員配置数は 40%が不適切→30%になった
- バリアフリーは現利用者には適切
- 第三者評価をしていない。
- PDCA サイクルが周知しきれていない
- 研修の機会は設けられている

B児童への支援内容

- 活動プログラム・打ち合わせ等日々の療育活動を進めていくに当たる必要なことは、大半が「はい」である。
- ガイドラインが周知徹底していない
- アセスメントツールを使用しきれていない
- 定期的なモニタリング・記録の徹底・支援の検証改善の意識がまだ薄い「どちらともいえない」が 40%

C関係機関との連携

- 障害のない子どもと関わる場がない
- 保護者との連携ができていない
- ペアレントトレーニングなどの知識がない
- 学校との情報共有はできていない

D保護者への説明責任・信頼関係

- 説明責任・信頼関係等は適切

E非常対応

- マニュアル作成等不適切な部分が多い
- 虐待研修など、職員の意識が高まってきている
- 避難訓練等行っているが、危機感が薄い

保護者による評価

A環境面

- 活動スペースは満たされている
- 職員配置は満たされている
- 職員に障がい特性の学びについて研修受講を希望
- バリアフリーは、「どちらともいえない」との回答が多い

B児童への支援内容

- サービス計画は 100%支持されている
- プログラムは 100%支持されている。「長期休みに通常活動を」との意見が多く見受けられるた
- 他の児童との交流は、4 分の 1 が「いいえ」と回答、放デイに求める内容でない・学校に任せれば良いとの意見もあり。

C事業所からの情報発信

- 保護者への説明・共通理解・支援・意思疎通は、「はい」が 9 割以「まち comi・ホームページの活用が良かった」との評価もあったが「個別連絡等への返信がなく不安」、「アナログ時代に合わせた対応が欲しい」との意見があった
- 保護者同士の連携支援は 2.5 割が「どちらともいえない」と回答。後は「はい」であった
- 苦情対応は「はい」が 9 割弱

D非常対応

- 非常時については、マニュアル・避難訓練を含め過半数が「どちらともいえない」を回答している。保護者への報告ができていない

E満足度

- 「どちらともいえない」3%以外ほぼ大半が通所・支援共に満足。

事業所内での分析

【共通点】

- 非常時対応についての明確化、保護者への報告が足りていない。
- 活動プログラム等は、保護者・職員共に適切と判断している。
- 保護者への説明責任・信頼関係は、共に適切と判断している。

【相違点】

- 職員の定着率は多くなって来たが、保護者からの信頼を得る為にもなお努力を続ける。
- 学校休業日の活動イベント等、特に外出について事業所を利用した活動を望む声が多かった。
- 職員の支援者意識が高まる反面、保護者との共通理解・報告が足りない者もいる。
- 保護者からの要望も職員の研修への参加を求める等、職員の質の向上が求められていた。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- 環境面が満たされている
- 活動プログラムの企画・準備・運営・評価がしっかりと行われている
- 保護者との信頼関係ができ、説明責任も果たしている
- 研修を受ける機会が、先年度よりもさらに増え職員から評価された。
- 地域の方々の理解と交流がある。

事業所の改善点

- 障害のない子どもと関わる場がない（必要ないと判断もされている）
- 非常時等の対応について、マニュアルの作成中等、足りない点が沢山あるが、現在徐々に改善を始めている段階。
- 関係機関との連携について職員の意識が薄い。
- 保護者同士の連携、懇談会など保護者への支援が足りない。
- ガイドラインがまだまだ周知されていない

事業所の改善への取り組み

- 非常時に慌てず対応ができるように、マニュアルを作成し、職員・保護者に配布し周知を徹底する
- 研修の場を更に広げ、職員の支援者意識を向上させる
- 半年に一度程度の保護者懇談会を開催する
- 職員が知らない事業内容が少しでもなくなるように、更に周知を図る努力をする
- 障害のない子どもとの関わりを、公園など近い場所から行う努力をする
- 地域資源を活用し活動範囲を広げ、子どもたちの余暇活動へとつなげられるようにする
- ヒヤリハットなどを見直し、日々の危険を職員全体で共有して事故防止に取り組む
- 報告、連絡、相談を徹底する

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

事業所が5年目を迎え大きく変わって行こうとしている。高学年の中・高部への移動による小学部の低学年化、高校生が増える事での社会に出るための支援向上、個別支援だけでなく小集団での活動支援などさまざまな支援が必要になる中で、保護者との共通理解・連携、職員の資質向上は勿論、定着率を上げ本当の意味で子どもたちや保護者からの信頼を得られる事業所であるために、多くの課題があることの分かる評価結果であった。
☆ 中心となる若いスタッフが支援者意識を高めようとしている。